

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈中・36〉	いわき市立	川部	中学校
〈実施日〉	平成27年12月11日(金)			
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 ① 理科 2 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他()			
〈実践内容〉	<p>3年の理科の授業の中で、放射線について正体と東日本大震災で起こったことを関連させて授業を展開した。</p> <p>〔行った内容〕</p> <ul style="list-style-type: none">・ 放射線の種類(α線、β線など)と特徴 →種類によって正体が異なること(原子、電磁波、中性子など)を確認した。・ 放射線の通過度の違い →正体となる物質が大きいほど、紙1枚で遮断できたり、水などでないと遮断できなかったりすることを確認した。・ 放射線の有用性と問題点 →放射線は農業や医療分野を中心に有効に活用されている。しかし扱いを誤ると、細胞などを傷つけ、がん細胞に変化する。このことから、扱いには十分注意をはらって利用されている。・ 過去の放射線漏れに関する話 →チェルノブイリやスリーマイル島で起こった事故を中心に、なぜ起こったのかを簡潔に話をした。・ 東日本大震災での、福島県における放射性物質の広がり方の特徴 →当日の気候や地形をもとに、広がり方を考察した。その結果は、国から出された考察とほぼ一致していた。 <p>いろいろな資料にのっている内容ではあるが、日常生活と今置かれている現状を踏まえて授業を展開した。恐怖心を今でも持っている生徒がいるが、現実を教えることで放射線は原子力発電関係だけでなく、日常生活にも関係していることをとらえる良い機会になった。</p>			
〈成果〉	<ul style="list-style-type: none">・ 特に東日本大震災における放射性物質の広がり方については、よく知らない生徒が多かった。そのため興味を持って聞くことができた。・ 放射線の種類もよく知らない生徒が多いせいか、真剣に話を聞いていた。			
〈課題〉	<ul style="list-style-type: none">・ 霧箱もやりたかったが、ドライアイスが容易に手に入らない状況であった。・ 話だけになりやすいので、霧箱や探知機を用いた授業の展開も考えたい。			
資料作成担当者職(教諭)氏名	(長津 孝史)		学校電話番号(65-2223)	

【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)